

## Ja Sakai カンファレンス セッション

## Ja Sakai カンファレンス セッション



15:30 - Ja Sakai コミュニティ活動報告 常盤 祐司 (Ja Sakai 代表)

15:50 - Sakai 11 Status and Future
Neil Caidin (Apereo Foundation)

16:30 - Ja Sakai コミュニティメンバーによる活動報告:

LTI 対応プログラミング自習システム 藤井 聡一朗(法政大学)

名古屋大学におけるSakai上での全講義登録のための 教務連携システム開発 田上 奈緒(名古屋大学)

PandA X: 京都大学における Sakai 10 の現状と課題 梶田 将司(京都大学)

首都大学東京におけるSakaiの導入 畠山 久(首都大学東京)

18:00 - 情報交換会



# Ja Sakai Community 2015 Activity

March 1, 2016
Ja Sakai Steering Committee

## Sakai/Ja Sakai Community History



2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
Saka	C	akai onf **	erei	nce	Sakai 13.8UY 2008 PANIS, FRANCE	Sakai Boston, MA - July & 10, 2009	Denver Sakai	Sakai Los Angeles Open Open Open Open Open Open Open Open	apere Jasigi Sakai ATLANTA-2012			Baltimore	OPEN APEREO 2016 100% OPEN 22-25 MAY - NYU
		Ja S Cor	Saka		★ 法政 大学	★ 名古屋 大学	★ 熊本 大学	★ 関西/ 大阪	★ 法政 大学	★ 京都 大学	★ 名古屋 大学	★ 法政大学	★ 首都 大学 東京
<b>E</b> m	<b>多名古屋</b> ▶	★ 大学 法政力 ★ 法政力	<b>、学</b> Persity	/lem	ber	ship	<b>大阪</b> 力 osaka univ	大学 ERSITY <b>KPI</b> AMENATSJ ELECTRONOS LT	以 関 大	学 京都大号 KYOTO UNIVERSIT LSAhi net International	£ Y		

## Ja Sakai コミュニティ - 設立趣意書目的



本コミュニティは、Sakai Foundation 内における日本版 Sakai の開発・機能強化および利用促進を目的とし、その実践を通じて Sakai Foundation が掲げる目的・ミッションを達成することを目指す.

## Activity 2015





(May 31– June 4, Baltimore)

Ja Sakai Unconference (Aug. 27, 28, 京都大学)







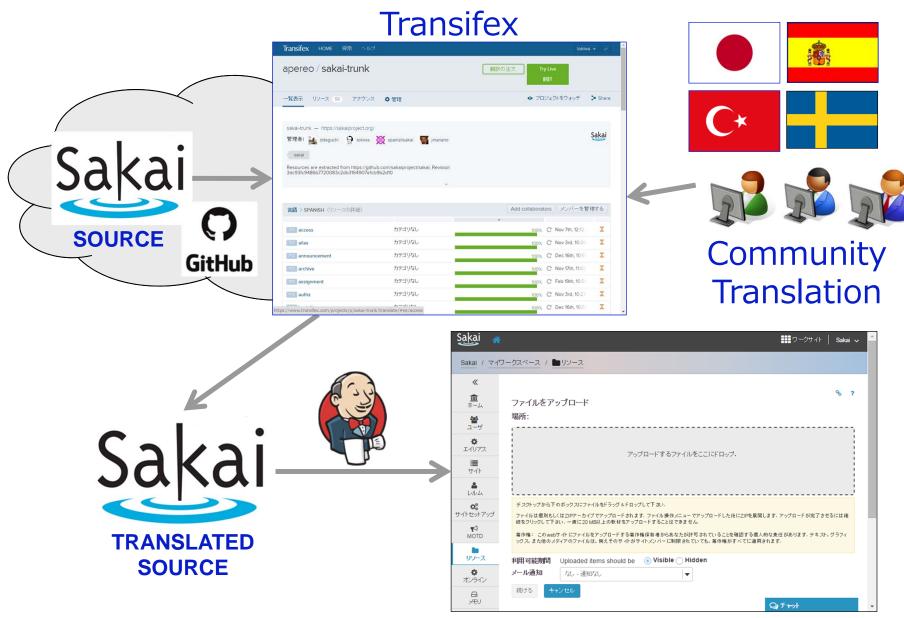
## Open Apereo 2016における日本からの成果報告



- Translating Apereo Software:
  A Case Study using Sakai and Transifex
  スペインのSakaiコミュニティと共同で構築したSakai翻
  訳基盤の説明を行った。
- Sakai Training Support Tool and Real Experiences for Institutional Compliance Training Programs Sakaiの授業支援以外の利用事例として京都大学におけるコンプライアンス研修に関する事例報告を行った.
- Showcase: max+: A Learning Tool for Programming using LTI Demo LTIに対応するJavaプログラミング自習ツールのデモンストレーションを行った.

## Translation by Transifex





## 大学ICT推進協議会 年次大会 企画セッション





(Dec. 2-4, 名古屋)

# オープンソースソフトウェア翻訳の最新事例 - Transifex & git/github -



### 情報処理学会における成果報告



情報処理学会デジタルプラクティス Vol.6 No.2 (Apr. 2015)



## 教育用オープンソースソフトウェア 群のローカライゼーションと共通 翻訳メモリの開発

― 一貫性のある用語による教育支援システムを目指して―

常盤 祐司  $^{\dagger 1}$  出口 大輔  $^{\dagger 2}$  宮崎 誠  $^{\dagger 3}$  平岡 斉士  $^{\dagger 4}$  喜多 敏博  $^{\dagger 4}$  梶田 将司  $^{\dagger 5}$ 

<sup>†1</sup> 法政大学 <sup>†2</sup> 名古屋大学 <sup>†3</sup> 畿央大学 <sup>†4</sup> 熊本大学 <sup>†5</sup> 京都大学

大学教育で利用されているオープンソースソフトウェアの多くは英語圏で開発さる。今後大学では複数のシステムにより教育支援のためのIT環境を構築すること 異なっているとユーザに違和感を抱かせる。この課題に対して、大学教育で頻出: 共通翻訳メモリを作成することによって一貫性のある翻訳が実現できると考えた。 できないコンテキスト依存の翻訳を可能とする gettext 形式の PO ファイルを併 Sakai と PHP で実装された Moodle および Mahara をクラウドベースの翻訳支援 のプロセスで翻訳した。本稿では大学教育用オープンソースソフトウェアに対し ロジェクトについて述べる。 情報処理学会研究報告 IPSJ SIG Technical Report Vol.2015-CE-132 No.37 Vol.2015-CLE-17 No.37 2015/12/6

#### Open Apereo 2015 Conference 参加報告

藤井聡一朗†1 常盤祐司†1 出口大輔†2 梶田将司†3,†4

Open Apereo 2015 Conference が 2015 年 5 月 31 日~6 月 3 日に米国ボルチモアで開催された。本稿ではこの Open Apereo Conference で得られたトピックスを報告する。まずカンファレンスで発表された 105 セッションを分類し Apereo コミュニティが目指す方向性を整理する。次に Apereo コミュニティの中心的なプロジェクトである Sakai II の方向性、Sakai にいち早く実装された LTI、日本 Sakai ロミュニティから提案を行っている組織的な Sakai 翻訳、Sakai OSP の後継として位置づけられる c ボートフォリオ Karuta について報告する。

### A Collaborative Report on The Open Apereo 2015 Conference

SOICHIRO FUJII $^{\dagger 1}$  YUJI TOKIWA $^{\dagger 1}$  DAISUKE DEGUCHI $^{\dagger 2}$  SHOJI KAJITA $^{\dagger 3, \dagger 4}$ 

The Open Apereo 2015 Conference was held at Baltimore, MD, U.S.A on May 31st – June 3rd, 2015. This paper reports the latest information captured through the conference, including that of the Sakai direction projected from 105 sessions. And as topics of this conference, a landscape of Sakai 11 succeeded from Sakai 10, a current status of LTI implemented at first on Sakai CLE, an organized translation of Sakai CLE by community, and Karuta such as next e-Portfolio system in Apereo community are described.

#### 1. はじめに

Open Apereo 2015 Conference に参加した Ja Sakai (日本 Sakai ) コミュニティメンバが (1) カンファレンス概要, (2) Sakai 11 概要, (3) コミュニティによる組織的翻訳, (4) e ポートフォリオのそれぞれについて報告する.

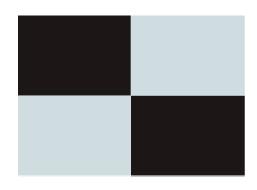


図 1 Open Apereo 2015 Conference □ ゴ

Figure 1 The Open Apereo 2015 Conference logo

### Sakai Production





TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

## 首都大学東京





## http://www.sakaiproject.jp









Neal ensures the continued high quality and timeliness of Sakai releases, on a schedule that is appropriate for institutions depending on the Sakai project worldwide. Neal is the community liaison for Sakai project by being a central community contact and through facilitation between groups.